

## 第2学年 国語科学習指導案

日時：平成25年6月5日（火）

場所：2年2組教室

対象：2年2組 35名

指導者：細川 太輔



### 1. 単元名 「いなばの しろうさぎ」の音読劇を しよう

教材名 教育出版2上 「いなばの しろうさぎ」

### 2. 単元を貫く言語活動

単元を貫く言語活動として、「音読劇をしよう」を位置付けた。言語活動例で言えば、読むこと（イ）「物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりする言語活動」にあたる。低学年の児童は面白いお話の読み聞かせを聞くと、それを劇にして演じようと思うであろう。その劇を通して、神話を楽しく読むことができ、今後いろいろな神話を読もうとする姿勢を育てることができると考えた、

また神話を音読劇にするときに、お面を作ることにした。お面を作ることで、登場人物になりきることができるし、何より登場人物のお面を作ろうとすることで、神話をしっかり読むことにつながるからである。とくにこの神話で出てくる「わに」はワニなのか、サメなのか。それともまた別の生き物なのか、児童はお面を作る際に考えるはずである。その悩みがきっかけとなってますます神話をよく読もうとすると考えている。

### 3. 単元設定の理由

#### （1）児童の実態

毎日日記を書いたり、出席係が毎日お題を出して、出席をとったりするなどして、少しずつ言語活動を習慣化してきている。しかし、まだ友達の話に興味を持てなかったり、集中力を保てなかったりする児童もいる。また積極的に挙手をして発言できない児童や、相手に伝わる声の大きさと話せない児童、自分の考えを整理して伝えられない児童もいる。話す力、聞く力、またはグループやクラスでコミュニケーションをとっていいこうという意欲、どれもまだ弱いとされている。そこで友達の話を聞くことを強制したり、聞く姿勢を外側からしつづけたりする道をとるのではなく、友達の話を聞いて楽しかったという経験を重ね、友達の話を主体的に聞こうとする姿勢を育てているところである。

1学期の間、難しい読む活動はまだ難しいと考え、音読を中心に学習を組み立てている。最初に詩を工夫して音読する学習を行った後、「ひっこしてきたみさ」では音読発表会を行った。どの学習も、文章中の言葉と、音読の工夫を結びつけ、本文を根拠に音読する学習を積み重ねてきた。言葉のイメージを音読で発表することで、登場人物の行動をイメージする学習をしてきたが、登場人物の様子をイメージするような学習は行ってきていない。

#### （2）学習材 「神話」について

学習指導要領解説に「昔話や神話・伝承は、国の始まりや形成過程、人の生き方や自然などについての古代からの人々のものの見方や考え方が、長い歴史の中で、口承だけでなく筆記された書物として、現在に引き継がれてきたものである。」と書かれているように、児童が生活している地域、国にはたくさんのお話があり、それが引き継がれて現代の言葉、言語文化が成立している。本単元では児童に親しみのある昔話とは異なる神話というジャンルを読む。児童は、昔話に比べて神話は親しみが薄い。

学習指導要領解説によると「昔話」は、「むかしむかし、あるところに」などの言葉で語り始められる空想的な物語であり、特定又は不特定の人物について描かれるのに対し「神話・伝承」は、一般的には特定の人や場所、自然、出来事などと結び付けられ、伝説的に語られている物語とされている。つまり神話とは、特定された地域に、文化として引き継がれてきたもの、換言すれば地域や国として成り立たせている文化の一部とも言える。

授業者は、児童にお話を楽しみながら、こういう神話が残されている日本という国についても何か感じてほしいと考えている。80人の神様が行列を作っていること、しかも80人の神様が意地悪をするとはどういうことか、助ける大国主はどのような人柄か、海にいる「わに」とは何か、など低学年の児童でも場

面や人の行動を読み取ることができる文章である。また神話の登場人物のイメージを膨らませることは、昔の日本のあり方をイメージすることにつながり、神話・伝承に興味関心をもつことにもつながる。また並行読書を取り入れることで、読書量を増やしているいろいろな神話を知って日本という国に対する理解を深めるとともに、神話に対する興味関心を高めることもねらった。

### (3) 単元の構想について

この単元では、「いなばのしろうさぎ」の音読劇を作り上げる中で、登場人物の様子や行動を読み取ることと、神話に親しむことの2つを同時に目指す。そのため、いきなり単元を始めるのではなく、単元を始める前に、身の回りの神社などの話や、季節の行事の話をしたり、図書で神話の読み聞かせをして頂いたり、筆者が出雲大社に行った話、府中の大国魂神社などをして、少しずつ言語文化に興味をもてるようにしていく（0次の発想）。

また音読劇をするのと同時進行で神話の並行読書を取り入れる。神話カードを作り、毎日神話を読む時間を作って、読んだ神話を記入していった。そのことで、たくさんの神話を読む機会を保証し、神話にふれられるようにした。

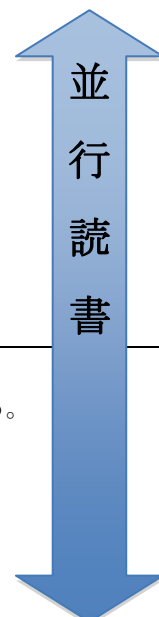
## 4. 単元の指導目標・評価規準

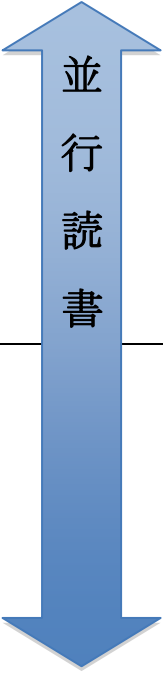
- 神話を読み、そこに表されている登場人物の行動を読み取ることができる。（読むことウ）
- 神話の劇を発表し合い、神話・伝承に興味をもつことができる。（伝統的な言語文化ア）

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・理解・技能
神話をもっと読みたい、と前向きと意欲を高めている。	登場人物の様子・行動をイメージして読む。（ウ）	神話の劇を発表し合い、神話の世界に親しむ。ア（ア）
学習感想に神話・伝承への前向きな感想を書いたり、他の神話を読んだりしている。 （感想カード・並行読書）	白うさぎ、わに、神様たちの行動、様子を自分なりに表現している。（劇）	神話の読み聞かせを聞いたり、劇を発表し合ったりしている。（劇）

## 5. 単元の学習活動と指導のポイント(本時4/7)

時	学習活動と指導のポイント
0次	いきなり単元を始めるのではなく、前もっていくつか神話を読み聞かせをしたり、季節の行事の後に伝統文化の話をしたりするなど、児童が神話の学習に自然に入れるようにする。授業者が出雲大社にいった際の話もする。
第1時	<p>①単元の目標を知る。 これから神話について学習し、劇を作ることを話す。神話とは昔の日本人の考え方や文化が入っていて、それが今も続いていることを伝える。</p> <p>②教師が「いなばのしろうさぎ」を読みかせるのを聞く。 想像しても本文から、わからないことは教師が教える。 （隠岐の島の位置、大国主が日本を治め、出雲大社でまつられていること、大黒様とよばれていることなど。）</p>
第2時	<p>① 劇の準備のためのお面の下書きを作る。</p> <p>② うさぎ、大国主、わに、兄たちを作りながら、疑問に思ったことを報告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神様なのに意地悪をするんですか。</li> <li>・ 隠岐の島とはどこにあるんですか。どれくらい遠いんですか。</li> <li>・ 大国主はどういう神様ですか。</li> <li>・ うさぎのお面は一つでいいのかな。色はどうか。</li> <li>・ 大国主はどういう顔をしているのかな。</li> </ul>



	・ わにってどんな生き物？	
第3～6時	<p>① 疑問に思ったことを話し合う。</p> <p>② 解決した疑問をもとにお面を作る。</p> <p>③ 終わったグループは音読・動作の練習をする。(本時第4時)</p> <p>【留意点】 会話文の読み方を工夫させる。80人の兄弟が笑いながら側を通っていくところや、大国主命の話し方などを工夫させたい。</p> <p>また大国主命がうさぎと話しているときの兄弟たちの動きも工夫させると兄弟の人間関係が見えてくる。実際古事記では兄弟たちは大国主命を馬鹿にしているので、うさぎを助けている大国主命を馬鹿にしているであろうことは想像がつく。</p>	
第7時	<p>① 劇の発表会をする。</p> <p>1班7分程度で終わらせる。発表が終わった後に大きな拍手をして、劇をした班をたたえ、劇をやってよかったと思えるようにしたい。</p> <p>② 神話劇の感想を書く。</p> <p>【留意点】 劇に対する感想ではなく、あくまで神話の学習についての感想を書かせる。</p> <p>【評価】 感想カードに神話への前向きな感想を書いている。</p> <p>例：ぼくは、いなばの白うさぎの神さまはひどいとおもいました。毛をはがされたあとに海の水で洗うなんて、痛いに決まっています。友達が意地悪な兄弟役でうさぎをばかにしているところをやっているのを見て、とてもそう思いました。</p>	

## 6. 本時の学習指導

### (1) 本時のねらい

文章をもとに、「わに」がどんな生きものか、イメージをもち、お面をつくろう

### (2) 本時の展開

主な学習活動（・予想される児童の反応）	○留意点 ※評価
<p>1. 前時に作ったうさぎのお面とその理由について発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 「わに」のお面をつくろう </div>	<p>○根拠にした言葉をきちんと言わせるようにする。</p>
<p>2. 下書きのお面を見て、いろんな意見があることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わに」って書いてあるから、「わに」なんじゃないかな。</li> <li>・でも日本に「わに」はいないよ。</li> <li>・海にも「わに」はいない。</li> <li>・あつという間に毛皮をはぎとったんだから凶暴な動物だよ。</li> <li>・きつとくじらだよ。集まって島から並べるぐらい大きいんだから。</li> <li>・でもくじらは毛皮ははぎとれないよ。</li> </ul>	<p>○本文と自分の経験を結びつけて、自分なりのイメージをもつことを大切にする。</p>
<p>3. お面をつくるために、もう一度本文を読む。</p>	<p>○目的をもって、本文を読ませる。</p>
<p>4. お面をつくる。</p>	<p>※自分のイメージでお面を作っている。</p>



子どもたちが教室で読んでいた本（学校図書館から、1週間学級貸出）